

平成 27 年 5 月 5 日

所属部局・職 霊長類研究所・修士課程学生

氏名 五明 浩子

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)

京都府、大阪府、和歌山県、愛知県

2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)

生物科学専攻インターラボ

3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)

平成 27 年 4 月 6 日、平成 27 年 4 月 8 日～11 日 (5 日間)

4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)

京都大学原子炉実験所、京都大学瀬戸臨海実験所、京都大学白浜水族館、京都市動物園、京都大学生態学研究センター、京都大学霊長類研究所、日本モンキーセンター

5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)

写真(必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。
別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。

インターラボは 4 月 6 日、4 月 8 日～11 日の 5 日間、京都大学生物科学専攻新入生を対象として、下記の日程で行われた。この期間、新入生は京都大学の各研究施設と関係機関を訪問し、生物科学専攻の広範囲な研究について、研究目標や研究方法および先端的な研究内容の概略を学んだ。それと同時にマイクロやマクロといった研究対象の垣根を越えて、新入生同士で親睦を深める機会を持った。

2015/4/6 ウェルカムレクチャー (於 京都大学北部キャンパス)

2015/4/8 原子炉実験所、瀬戸臨海実験所訪問 (瀬戸臨海実験所宿泊)

2015/4/9 瀬戸臨海実験所、白浜水族館訪問

2015/4/10 京都市動物園、生態学研究センター訪問

2015/4/11 霊長類研究所、日本モンキーセンター訪問

日程ごとに概略と感想を記す。

2015/4/6 ウェルカムレクチャー (於 京都大学北部キャンパス)

ウェルカムレクチャーでは異なる研究分野に所属する若手研究者 6 人の講演を聴いた。各人 30 分程度で、研究内容の紹介や新入生へのアドバイスをしていただいた。研究内容の過程を淡々と説明するだけでなく、行き詰まりや苦悩といった実情も交えて話していただき、とても参考になった。中でも繁殖干渉の研究をしている京極さんの「このテーマにならなくても良いと思った」という発言が強く印象に残っている。

2015/4/8 原子炉実験所、瀬戸臨海実験所訪問 (瀬戸臨海実験所宿泊)

京都からバスに乗り、各施設へ向かった。原子炉実験所ではまず施設の概要や研究内容に関する講義を受けた後、施設内を見学した。KUR 炉室では昔手術をしながら照射していたという照射台が印象に残った。



炉心を上から覗く

原子炉実験所の見学の後、瀬戸臨海実験所へ向かった。この日、講義はなく夜に宴会のひと時を持ち、新入生同士で交流を深めた。宴会を通じて感じたことは皆、生物への知識が豊富で、好奇心に満ちているということだった。

2015/4/9 瀬戸臨海実験所、白浜水族館訪問

早朝に起き、同じ新入生の徳重さんと周辺の散策をした。砂浜で貝を拾い、学部時代に貝の研究をしていた彼女に種類を教えてもらった。瀬戸臨海実験所は南北異なる湾に面した岬に所在しており、海と砂浜と緑の木々に囲まれた環境にある。散策はとても楽しかった。

朝食の後は、講義を受けた。海の生物に関する知識をほとんど持たなかった私には、どの講義も新鮮だった。系統分類学から生態学まで広範な研究が行われていることを知った。

講義の後は施設内の見学を行った。白浜水族館の見学も行い、普段は見られない水族館の裏側も案内していただいた。裏側でははじめてみるサメの卵に驚かされた。



朝の散歩



サメの卵

2015/4/10 京都市動物園、生態学研究センター訪問

京都市動物園へは初めて訪れた。田中特認教授に案内していただいた。ヤブイヌやチンパンジー、ゴリラでは大学と協力して研究を行っているという話を聞いた。ゴリラの観察では動物園に良く訪れる一般の方も観察記録をつけられるシステムを作っているという。アジアゾウを担当している昨年 WRC を卒業された西山さんの話を聞く機会もあり、キュレーターという PWS の出口に関しても考えるきっかけとなった。



床暖房の上で寝るライオンの雌雄

生態学研究センターではまずセンターの説明を受けた後、若手研究者3名の講義を受けた。その後、所内を見学した。このセンターでは非常に広範な生物種が研究対象となっていた。植物、昆虫、菌類、陸生から水生まで様々だった。若手研究者の研究も1種に限定されず植物と昆虫の関係や、菌類と昆虫の関係など種間に及ぶ研究が紹介されていた。1種に限定されず種間関係や環境にも視野を広げることで新たなことが見えてくるのだと感じた。

2015/4/11 霊長類研究所、日本モンキーセンター訪問

京都からバスに2時間半揺られ、霊長類研究所へ着いた。研究所の説明を聞いた後、施設内を見学した。チンパンジーを研究所の4階から見たのは、このときがはじめてだった。

日本モンキーセンター(JMC)へ移動し、まず講義を受けた後、所内を見学した。講義ではJMCの歴史や現在行っている京大日曜サロンの話などを聞いた。所内見学は自由に行った。見学の中では、それぞれのケージの中に消防ホースで様々な遊具を付属しているのが印象に残った。



消防用ホースの利用

6. その他 (特記事項など)

本実習は PWS リーディングプログラムの援助を受けて行いました。プログラム関係者の皆様、そしてインターラボ関係者の皆様に感謝申し上げます。